

## 枕崎市地域公共交通活性化協議会 令和7年度第1回会議 議事要旨

令和7年4月28日（月）午後1時30分

枕崎市民会館2階 第1会議室

【出席者】 委員30名中24名の出席あり

### 【内 容】

#### 1 開会

#### 2 会長あいさつ

枕崎市長よりあいさつ

#### 3 協議

##### (1)委員の交代について

質疑なし、承認

##### (2)令和6年度事業報告及び決算（案）について

##### (3)令和7年度事業計画及び予算（案）について

委員	国の補助が不採択だった場合の、市主体の乗合タクシーの実証運行（ドア・ツー・ドア方式）の具体的内容を教えてほしい。
事務局	金山地区は6ヶ月、他地区は4ヶ月間実施する。車両2台で地区ごとに曜日を分けて運行し、路線バスと競合しない時間帯に設定する。詳細は今後協議会で決定する。
委員	国の補助事業の採択基準や見込みはどうか。不採択の場合、市の単独負担で規模を広げることへの懸念がある。
事務局	5月中に結果が出る見込みだが、全国からの応募状況次第であり採択は確約できない。不採択で市単独の実施となった場合でも、将来的な市内全域での公共交通網構築に向けた需要やランニングコストのデータ収集として非常に重要な事業であると位置づけている。
委員	乗合タクシーの実証について、民間の申請内容と市の単独案は、規模や台数は同じで、AIを活用するかしないかの違いという認識でよいか
事務局	ご認識の通りである。
委員	昨年度実施した「高校生と保護者向けアンケート」の結果を受けて、市として新たな施策を検討しているか。
事務局	通学費の補助があれば「引っ越し」から「路線バス通学」へ切り替える意向を持つ層が一定数いることが判明した。現時点で具体化した施策

	はないが、今後の制度設計の基礎資料とする。
--	-----------------------

質疑応答後、承認

(4)その他

委員	JR 指宿枕崎線 利用促進事業について、なぜ 65 歳以上に限定するのか。学生の利用が減っている今、全世代を対象に利用促進を図るべきではないか。
事務局	元々は子どもたちの体験づくりと、高齢者の健康づくりの 2 本柱で制度設計した。対象拡大については、次期総合振興計画の策定に合わせて事業全体の枠組み見直しを行う中で検討したい。
委員	これは市の単独事業か。また、バスの利用促進についても検討してほしい。
事務局	市の単独事業である。バスやタクシーを含めた全体的な利用促進策についても、鹿児島交通様と意見交換しながら検討していきたい。
委員	市民だけでなく、市外からの観光客（インバウンド含む）に対する公共交通の利用促進も重要である。特に酒蔵見学など、飲酒を伴う観光において公共交通はニーズが高い。
事務局	観光客向けの施策についても、次期計画の中で重点的に検討してまいりたい。
委員	高齢者の間でグランドゴルフが非常に盛んである。JR で指宿へ行き、そこからバスで会場へ向かうような「グランドゴルフ大会モデルルート」を企画すれば、かなり需要があるのではないか。
事務局	モデルルートの提案など、具体的な利用促進策として検討したい。

4 閉会